

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 1	理念・目的
------	-------

総評
<p>0101・0102 学部教育の主たる目的を明示する教育理念に関しては、【知る】、【話す】、【体験する】という国際関係学部の教育方針として、国際関係学部の教職員・学生に示されており、教育活動の志向性を学部内で共有しようとする真摯な姿勢が見受けられる。[0101・0102f]</p> <p>一方、上記の教育方針が学部内に浸透している故、教育理念と教育方針との差異が曖昧になりやすいという課題があり、教育理念と教育方針との関連性や、教育理念・教育方針等の公開方法を定期的に検証することが望まれる。[0101・0102b,c]</p>
長所・特色 <簡条書き>
<p>0102 国際関係学部の新入生に対して、学部の教育理念等を入学当初から明確に伝える工夫がなされている。</p> <p>0101・0102 教育の方針として学生便覧[0101・0102a]に掲げている【知る】、【話す】、【体験する】は、学部の教育の特色を表すキーワードとして分かりやすい。</p>
留意点 <簡条書き>
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="text-align: right;">【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項</p>
<p>0102 学部としての「教育の目的」は学生便覧に、「教育理念・使命」はクリアファイルやポスター[0101・0102b,c]に示されているが、より広く社会に公開するための手段としてはホームページが重要であり、大学のホームページの国際関係学部のページ[0101・0102d]にはこれらが明示されていないので、掲載する必要がある。【B】</p> <p>0101・0102 ホームページのデジタルブックに掲げている『教育理念』としての3つの項目【知る】、【話す】、【体験する】は学生便覧[0101・0102a]では教育方針となっていて、記述が混乱しているので、『教育理念』を設定して明示する必要がある。【B】</p>

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 2	内部質保証
------	-------

総評
<p>0203 教育活動顕彰制度の評価方法を学部の実態に応じて見直す過程で、学部教育や研究活動等の質保証について議論するなど、内部質保証に関する活動が教授会を中心に行われた。その結果、各教員の教育研究活動の評価点検法として、全学的なポイント制の中に独自の教授会投票制度を導入しており、教員相互が評価しあう制度として独自性がある。[0203a]</p> <p>一方、組織としての各学部の外部評価および学内内部評価は全学的にも今回が初めてと思われるので、『実施しているか』の質問には自己評価が「C」となるのはやむを得ないと考えられる。内部質保証がシステムとして機能しているのかどうかを、内部で検討することには限界があり、透明性の高い外部評価を導入するなど、自己点検システムとして継続的に機能する仕組みの導入などが求められる。</p>
長所・特色 <箇条書き>
<p>0203 教員のポイント制に導入されている教授会投票は、適切性についての是非の議論はあると考えられるが、他学部にはない独自の評価法である。</p> <p>0203 今回実施したピアレビューの評価をもとにするなどして、建設的な方向に内部質保証システムを再構築しようとする方向性がヒアリング時に示された。</p>
留意点 <箇条書き>
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="text-align: right;">【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項</p>
<p>0203 質保証のための外部評価および学内内部評価は全学的にも今回が初めてと思われるので、『実施しているか』の質問には自己評価が「C」となるのはやむを得ないと考えられるが、自己点検を行う上での根拠資料として提出された教授会議事録[0203a-d]が必要項目の抜粋になっており、日時、場所は記載されているものの、出席者と欠席者、どのような議題が審議されたのか（議題一覧）、配布資料一覧などが書かれていないため、根拠資料としては適切性が判断できない。会議の議事録にはある程度は決まった記載項目があるので、たとえピアレビューの該当項目の根拠資料として提出するために該当する議事の部分の審議内容と結果を抜粋するにしても、議事録として標準的に書くべき項目だけは残して根拠資料にする必要がある。また、議事録だけでは内容が判別できない部分があるので、審議の基になった添付資料がある場合は根拠資料として提出が必要である（追加提出資料として後日提出されたが）。【B】</p>

2018年度（対象年度：2017年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準4	教育課程・学習成果（1）
-----	--------------

総評	
0401	学位授与の方針を定め、「学生便覧」にて広く学生に提示している点は評価できる。[0401・0402a]
0402	教育課程編成・実施の方針を定め、「学生便覧」にて広く学生に提示するとともに、「中部大学情報公表」ホームページにより、CPを社会に対しても公表している点は評価できる。[0401・0402a,0402a]
0403	シラバス第三者点検により、各学科のCPと個々の授業科目の内容および方法の適合性の確認を行うとともに、在学生に対して、「学生便覧」で教育目標と卒業要件・教育課程の関連性を、また、「科目ナンバリング表」で授業科目の分類や難易度等を示している点は評価できる。[0403a,b] ただし、存在する「カリキュラムマップ」や「履修モデル」については、オープンキャンパス参加者のみに提示することどまっておき、これらについても、その内容等について学部内で精査・検討を行った上で、在学生にも提示することが望ましい。[0403c,d]
長所・特色 <箇条書き>	
総評の0401および0402で述べた点は、それぞれの観点から（[0401]、[0402]）、長所として評価できる。	
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0403(2)	「カリキュラムマップ」[0403c]や「履修モデル」[0403d]については、その内容のさらなる整理が必要とのことなので（回答票による）、今後、学部内で精査・検討を行い、在学生に対してより伝わりやすい形で提示することが望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準4	教育課程・学習成果（2）
-----	--------------

総評

0404 新学科（国際学科）の特色ある授業科目である「ハイブリッド・プロジェクト A・B・C」では、授業のテーマ設定の段階から受講生と教員によるディスカッションを行い、学生の自主性を尊重しながら教員が必要に応じてサポートしていく形の授業を実施するなど、学生の主体性を促し、学科の教育目標を達成するのに効果的となるような授業の工夫が行われている点については、学修の活性化や効果という点で評価できる。[0404a]

0405 単位認定や学位授与の適切性については、学部教授会において当該年度の卒業判定の審議・承認を行うなど、学位授与が適切なプロセスを経て行われていることが確認できた。[0405c,d,e]

一方、成績評価の基準や卒業論文の審査基準については、明文化されたガイドラインなどがなく、各教員の判断に委ねられているのが現状となっている。成績評価や卒論審査の客観性、厳格性を確保し、学位授与の適切性を向上させるために、成績評価や卒業論文の審査に関するガイドライン策定などの検討を進めていくことが望ましい。

長所・特色 <箇条書き>

0404(3) 「ハイブリッド・プロジェクト A・B・C」の授業などでは、学生の主体性を促し、学科の教育目標を達成するのに効果的となるような授業が実施されており、長所と認められる。

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0405 成績評価や卒論審査の客観性、厳格性を確保し、学位授与の適切性を向上させるため、成績評価や卒業論文の審査に関するガイドラインを策定することが望ましい。【B】

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準4	教育課程・学習成果（3）
-----	--------------

総評

0406 学生の学習成果の把握・評価の適切性について、1年次終了時点でクラス代表者によるプレゼンテーションを行い、1年間の学習成果の評価や検証がなされている点は評価できる。また、学生の成績等の状況について、学科会議にて現状の報告と情報共有がなされている点は評価できる。[0406a,f]

一方、一部学科においては、4年生全員参加による卒論中間発表会が行われ、卒業研究の進捗状況や成果の評価が行われているものの、卒論発表会については、担当教員の判断による個別のゼミでの実施に留まっているため、卒論中間発表会や卒論発表会の全学科での実施について、今後の検討が望まれる。[0406d,e]

0407 教育課程およびその内容、方法の適切性についての定期的な点検・評価については実施されて（記載されて）いないため、適切なエビデンスに基づく点検・評価やその結果に基づく改善・向上の取り組みについて、今後、学部内で検討し、実施していくことが望まれる。

長所・特色 <箇条書き>

0406 「国際基礎演習」の授業において、クラス代表者によるプレゼンテーションを行い、1年間の学修成果の評価や検証を行う試みは、学生の学習成果の把握・評価の適切性という点から評価できる。

留意点 <箇条書き>

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0406 卒論中間発表会や卒論発表会の全学科での実施について、今後の検討と実施が望まれる。【B】

0407 3年次末時点の学習成果を測るための指標を検討・策定し、学生の学習成果を適切に把握・評価するとともに、その学習成果測定結果に基づく教育課程の適切性についての点検・評価を行う取り組みについての検討と実施が望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

総評	
0502 学生の受け入れに関しては、学部の教育理念等を正確に伝えるなど大学側の情報発信に関する側面と、入学を希望する学生の希望等に関連する側面の両側面から検討する必要がある。国際関係学部においては、大学の情報発信に留まらず、オープンキャンパスの場面を活用した高校生のニーズ把握活動など、入学を考えている生徒等の希望に着目した活動が行われている。こうした活動により得た知見等が、国際関係学部全体でより広く共有されるように学部内の制度を検討し、必要に応じて組織や規程を作成することも望まれる。	
長所・特色 <箇条書き>	
0504 学部の関与が相対的に大きい AO 入試について、学部全体で見直しを進めるなど、入学者確保に向けて学部全体で取り組もうとする積極性が感じられる。	
留意点 <箇条書き>	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

総評	
0602	国際関係学部に関しては、一学部一学科の構成となっているために、2 学科以上の学科をもつ多くの学部で見られるような委員会組織による運営ではなく、柔軟性・独自性がある学部・学科運営がなされているようである。こうした方法による運営で、現実的な問題は生じていないようであるが、組織の透明化・指示系統の明確化が求められる昨今の社会状況を鑑み、学部のさらなる組織化を進めることが求められる。
0605	学生入学定員数に対して教員比率が高いので、学生に対する教育は手厚くできるメリットがある。そのようになっているかどうか、教員 1 人あたりの教育負担の平均化や、学部全体での教員の分野別配置、年齢構成などの検討状況が根拠資料にはなかったため、今後これらの観点からの検討が望まれる。[0605a]
長所・特色 <箇条書き>	
0602	学生入学定員数に比較して教員数が多いのは、特色とも考えられる。
0605	今回のピアレビューをひとつの切っ掛けとして、学部内委員会規程や学部組織図の作成など、組織の透明化・指示系統の明確化を進めようとする方向性がヒアリング時に示された。
留意点 <箇条書き>	
	* 各項に留意点レベルを記入
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0602	教員配置の分野構成や年齢構成について、従来の経緯の特殊性から人事検討の自由度が少ない事情は理解したが、教員配置のあるべき姿について定期的に検討して記録に残すことは必要ではないか。【B】

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 7	学生支援
------	------

総評
<p>0702 学生の修学に関する適切な支援を行うことを目的に、学科主任、指導教授、事務長のそれぞれが「学生チャート」を利用して、学生の単位取得率や授業出席率を適宜確認している。また、新入生については、最低でも 2～3 週に一度は出席率の確認をし、欠席しがちな学生への電話連絡や面談を行うとともに、学科主任、主任補佐、スタートアップセミナー担当者を中心に情報共有も行うなど、学部を挙げて退学者抑制に組織的に取り組んでいる点は評価できる。今後も、学部構成員の「学生チャート」の活用理解や意識喚起の推進を継続し、退学者の抑制につながることを期待したい。</p> <p>学生の進路に関する適切な支援を行うことを目的に、学生の関心度の高い旅行業界から卒業生を招いての懇談会を実施するなどの取り組みがなされている点は評価できる。[0702a,b]</p>
長所・特色 <箇条書き>
<p>0702(2) 学生チャートを活用した、学部をあげての退学者抑制の取り組みは、学生の修学に関する適切な支援という点から評価できる。</p> <p>0702(5) 卒業生と在学生との懇談会の実施は、学生の進路に関する適切な支援という点から評価できる。</p>
留意点 <箇条書き>
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="margin-left: 100px;">【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p style="margin-left: 100px;">【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 8	教育研究等環境
------	---------

総評	
0802	教育研究等環境に関する方針に基づいた施設・設備の整備について、国際関係学部では学部教育においてそれほど施設等を要することがなかったため、これらの点に関する意識は低いようであった。ヒアリングでそのことを指摘した結果、当初「A」であった自己評価が「C」と改められた。今回の自己点検・評価の取組みを通じて、教育研究等環境に対する意識が高まり、今後はこれらの視点についても、PDCA サイクルを回してより良い学部教育ができるものと期待している。
0806	教育研究等環境の適切性について定期的な点検・評価の実施については、上記のように学部の中に強い要望がなく、特に問題がないという認識であった。[0806a]
長所・特色 <箇条書き>	
0802	施設・設備に関しては特に新規の要望はなく、満たされた環境で学部教育が行われている。
0806	民族資料博物館やデジタルサイネージなどの施設・設備で発信するコンテンツの充実に努めている [0806a]。
留意点 <箇条書き>	
	*各項に留意点レベルを記入
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0802	教育研究等環境に関する方針は特にないようであった。それらは大学管財部の仕事という意識を受けたが、学部としてももう少し認識を高め、学生の教育をより良くするための要望を示せるようになることが望まれる。 【B】
0806	施設・設備の適切性に関して、現状を点検・評価するという意識がなかったようである。しかし、今回の自己点検・評価で教育研究等環境に対する意識が高まったと思われるので、学部教育の質を向上させるためにハード面での工夫にも知恵を割いて頂けると期待する。【B】

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 9	社会連携・社会貢献
------	-----------

総評
0902 社会連携・社会貢献に関する方針について、どのような方針でどのような目標を立て、如何にして点検・評価しているかが明記されていない。ヒアリングでそのことを指摘した結果、当初「A」であった自己評価が「B」と改められた。今回の自己点検・評価で示された根拠資料は全て大学側からの要請で開講されている教員免許状更新講習や公開講座であったが、実際には多くの先生方が様々な社会貢献をされているように見受けられる。 [0902a-d]
長所・特色 <箇条書き>
特になし
留意点 <箇条書き> *各項に留意点レベルを記入
【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0902 社会連携・社会貢献活動は学部の知名度を高める良い手段であるため、もっと戦略的に取り組むほうが学部の知名度向上に繋がり、学生募集や就職先確保の観点から得策であろう。実際には多くの先生方が様々な社会貢献をされているはずであるので、それらを学部として適切に把握し、戦略的に活用されることを期待したい。現状の受動的な姿勢の改善が望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第 1 部会）

2018 年度（対象年度：2017 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	国際関係学部
--------	--------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

総評
1120 管理運営組織および教育研究組織に対する持続的な業務内容の点検について、国際関係学部では学部教授会での報告を通して行われていることがわかったが、学部内委員会の議事録が作成されておらず、今回の自己点検・評価の根拠資料とすることができなかった。[1120a]。ただし、[0806a]の根拠資料で管理運営組織・教育研究組織の業務内容が部分的に点検されていることは把握できた。今回の自己点検・評価で不足していた部分が把握できたことや自ら問題意識も持っておられることから、本項目に関する改善が期待される。
長所・特色 <箇条書き>
特になし
留意点 <箇条書き>
* 各項に留意点レベルを記入
【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項
1120 で問われている管理運営組織・教育研究組織をスマートに機能させることは、より良い教育研究環境の構築に不可欠であろうと考えられる。今後作成される各委員会の議事録を年度毎に点検し、業務内容を評価することで、国際関係学部がより活性化することを期待したい。【B】